



富山県立山町 News Release

令和7年10月20日

送付枚数3枚（表紙含む）

令和7年度 秋季理科教育研究大会が開催されます

実施概要	「新時代に対応した科学技術を創造する理科教育」～急速な科学技術の進展を支える人材を育成する探究的活動～を大会主題として開催されます。 現在、理科離れや理科嫌いが憂慮されている中で、小・中・高等学校の教員が一堂に会して授業を参観し、今後の理科教育の在り方について協議するものです。	
日 時	令和7年11月14日（金） 9:30～17:00	
場 所	立山町立立山中央小学校 立山町立雄山中学校 富山県立雄山高等学校	
参加者	小学校・中学校・高等学校の理科担当教職員及び理化学会員	
内容	9:30～10:15（第2限）	研究授業（立山中央小学校） 「水のすがたと温度」
	10:45～11:35（第3限）	研究授業（雄山中学校） 「雲のでき方と前線」
	13:20～14:10（第5限）	研究授業（雄山高等学校） 「波」 「高分子化合物」
	14:30～15:40	研究協議
	15:50～17:00	講演
	※詳細は別添実施要項のとおり	
問い合わせ先	富山県立呉羽高等学校 教諭 近藤 貴久 電話：076-436-1056 FAX：076-436-1058	

FAX 送信元：企画政策課企画広報係 076-462-9968

令和7年度 秋季理科教育研究大会 実施要項

大会主題 「新時代に対応した科学技術を創造する理科教育」 ～急速な科学技術の進展を支える人材を育成する探究的活動～
 期 日 令和7年11月14日（金）
 会 場 立山町立立山中央小学校、立山町立雄山中学校、富山県立雄山高等学校
 主 催 富山県理化学会
 共 催 富山県教育委員会 立山町教育委員会
 後 援 富山県理科教育振興会
 富山県小学校教育研究会 富山県中学校教育研究会
 富山県高等学校教育研究会 物理部会・化学部会・地学部会
 富山県高等学校理科教育研究会
 参 加 者 小学校・中学校・高等学校の理科担当教職員及び理化学会員 約80名

研究授業・公開授業の題材・実施学年・指導教諭

順	会 場	題 材	学 年	指導教諭
1	立山中央小学校	水のすがたと温度	4年	岩崎 志海
2	雄山中学校	雲のでき方と前線	2年	石山 高德
3	雄山高等学校	波	2年	山田 朋子
		高分子化合物	3年	清水 智裕

講 演 演題 「(未定)」

講師 丹保 俊哉 （立山カルデラ砂防博物館 学芸課長補佐）

日 程	
受付	9:10～ 9:25
研究授業	9:30～10:15（第2限）
会場移動	
（受付）	（10:25～10:40）
研究授業	10:45～11:35（第3限）
会場移動・昼食	
（受付）	（13:00～13:15）
研究授業	13:20～14:10（第5限）
研究協議	14:30～15:40
講演	15:50～17:00

- ※ 研究授業を参観する最初の学校で受付をお願いします。
- ※ 各校、内履きをご持参ください。
- ※ 防犯上の理由から、職員証（名札）の持参・着用をお願いします。
- ※ 駐車スペースには限りがあります。参観される方は乗り合わせをお願いいたします。
- ※ 大会の中止や実施形態の変更をすることになった際は10月上旬までにお知らせします。

令和7年度 秋季理科教育研究大会 【研究授業のご案内】

■ 大会期日：令和7年11月14日（金）

■ 会場校：立山町立立山中央小学校 立山町立雄山中学校 富山県立雄山高等学校

■ 研究授業の概要および授業者の思い

学校	授業者	題 材	学年	授業概要および授業者の思い
立山中央小学校	岩崎 志海	水のすがたと温度	4	本単元では、水を熱すると水蒸気になることや冷やすと氷になることを温度と関係付けて調べ、水の状態変化について学ぶ。水が沸騰したり凍ったりする現象はじっくり観察することで新たな気づきが生まれやすい。そこで、実験や観察を通して事物・現象にふれ、得られた気づきを基に考えを深める時間を大切にしながら授業を進める。これにより、児童が事物・現象への理解を深め、科学的に探究するよさや楽しさを実感できるようにしたい。
雄山中学校	石山 高德	雲のでき方と前線	2	前線が通過する前後の気象要素の変化をグラフから読みとり、気温が上がったり下がったりするのはなぜか考察する授業を行う。地球領域では、地球や宇宙に関する自然の事物・現象を主として時間的・空間的な視点で捉える学習活動を取り入れたいので、人間を模した人形と温帯低気圧（寒冷前線、温暖前線、寒気、暖気等が示された透明セロファン）のモデルを準備し、生徒が温帯低気圧のモデルを実際に動かすことで、気温がどのように変化するかを深く理解させたい。また、前線通過後に気温以外の気象要素がどのように変化するかも考えさせ、グラフと対応しているか確認する時間をとる予定である。
雄山高等学校	山田 朋子	波	2	音のドップラー効果について、音の高さが変わって聞こえる理由を、グループごとにモデルやシミュレーションを用いて話し合う場面を設定します。見ることでできない音波をイメージしながら現象の仕組みを考えることが目的です。波の性質について振り返りながら、他者の意見や自分自身の気づきをもとに科学的に探究し、現象の理解につなげられる授業にしたいと考えています。
	清水 智裕	高分子化合物	3	銀鏡反応実験を行い、糖類特に二糖類の還元性と構造について考えます。有機・高分子化合物の構造と性質の関係性は通常授業だけでは実感しづらく、納得しないまま内容をただ覚えようとする生徒が多くなります。そこで、授業内容の理解の深化を目的として、複数の糖類の比較実験を行います。また、すでに学んだ知識を活用し、考察・検証を行うことで、科学的に探究する力を伸ばす授業にしたいと考えています。